



探究ニュース Access No. 19

発行日 令和4年3月24日

目次

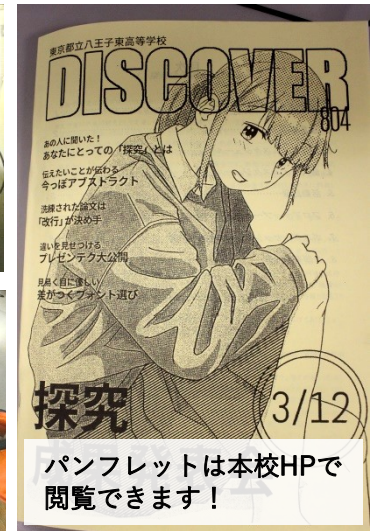
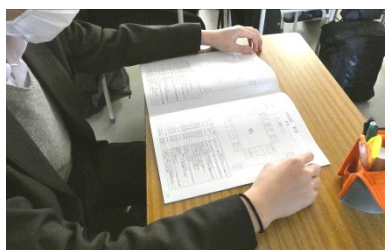
- I 探究成果発表会2021開催！
- II 国際交流 台湾学習
- III 京都大学 森・里・海 連関学合同成果発表会

I 探究成果発表会2021開催！

探究授業の総まとめとなる探究成果発表会2021が無事に行われました。感染症対策から在校生中心の公開となりましたが、その様子をお伝えします。

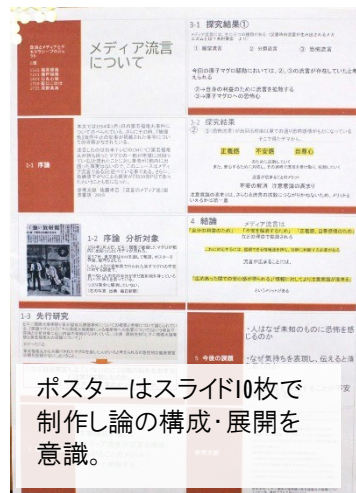
○開会式

前日準備で準備は万端。当日は朝9:00の開会式からスタート。
 感染症対策のため生徒は全員集合せず、放送にて開会式を行いました。実行委員長の2年生、竹澤さんより開会宣言。今日まで実行委員会を強力に引っ張ってきました。
 各会場で聞いている生徒は、発表手順の最終確認をしています。1年生はチームで、2年生は個人で、それぞれ全員が発表に関わります。



○第1部 ポスターセッション

前半はポスターセッションです。1年間の探究活動を通じて仕上げたポスターが教室・体育館他いたるところに掲示されました。
 生徒は3グループに分かれて交互に発表者とオーディエンスを務めます。オーディエンスから高評価を得たポスターには「いいね！」シールが貼られていきます。それだけでなく、質疑応答から新たな発見も生まれます。



ポスターはスライド10枚で制作し論の構成・展開を意識。



英字新聞2021最新版もお披露目。HPで全体を読むことができます。

○ポスターセッションの様子



「キャップ投げの原理」(物理化学ゼミ)
ペットボトルのキャップが飛んでいくメカニズムを物理数学を活用して探究しました。写真やグラフを用いて工夫しています。



「犬猫の殺処分を減らすには」
(哲学心理ゼミA)
ここでは多頭飼育崩壊に注目して発表が行われました。

1年生のB探究は体育館会場で発表を行いました。生徒のみならず連携企業の方や大学の先生方、視察にお見えの他校の先生方にお越し頂き、セッションにご参加いただきました。あちこちで生徒と議論する姿が見られました。



《VOICE》「後輩からの実験方法についての意見で、180℃違う、自分にない視点を持っていて「ハッ」とした。」

○第2部 口頭発表

後半は各プロジェクト・ゼミを代表するグループ・生徒の発表です。スライドの画像を投影し、プロジェクトやゼミの概要説明に続いて成果を発表します。それぞれの会場で多くのオーディエンスが集まり、耳を傾けました。



《VOICE》「質問に対して『私はそうは思わない』と自分の意見を明確に答えているところが素晴らしいと思った。英語の論文を読んでいて、言語が違ってても探究を諦めない姿勢が凄かった。」

○第2部 口頭発表（続き）



2年生 C探究



2年生 C探究

2年生は各教室にて、個人での発表です。各会場とも、板書にも個性やこだわりが見られました。

この日教壇に立つのは、ずっと探究を続けてきた生徒です。教わるのではなく自ら学ぶのが探究活動です。



1年生 B探究(課題解決型)



○閉会式

発表会の締めは、閉会式です。校長先生からの講評に続いて、締めの挨拶は実行委員会副委員長の1年生赤木君でした。1年生は今年の経験を生かして探究を発展させ、新しく入学する47期生を牽引して下さい。

1年生は来年度の成果発表会運営の
主役になります。

○今年度最後の探究活動

活動の後は振り返り(リフレクション)が大切。探究では最後に新たな課題を発見します。

46期生

1学年では、B探究の振り返りとこれから始まるC探究に向けて、マインドマップや文献リストの作成、達成度評価を行いました。4月から取り組むゼミ単位での個別テーマに向けて、春休み中に下準備を行います。

45期生

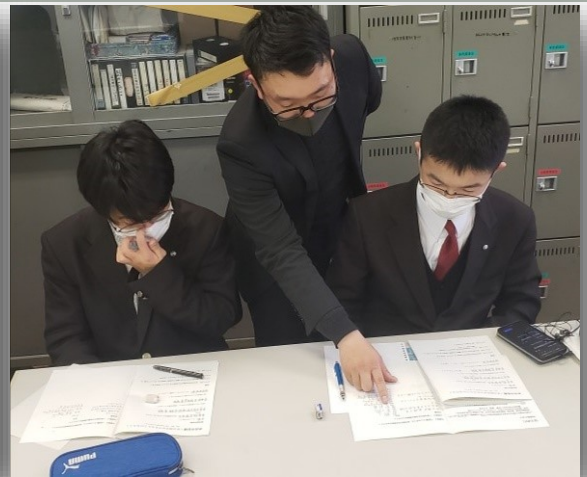
2学年では、C探究を振り返り、「後輩へのアドバイス」という形で自分たちの到達点と課題をまとめました。お世話になったゼミの先生方からもご挨拶頂きました。3学年では、課題探究は選択授業となり、後輩の指導を通じて研究を一層発展させます。

探究活動を進めるにあたり、各方面の専門家の方々より多大なるご支援を頂きました。この場を借りて、厚く感謝申し上げます。これからも引き続き、どうぞよろしくお願いいたします。

II 国際交流 台湾学習

● 中国語入門講座が行われました

台湾学習の一環として、中国語講座を開講しました！台湾交流チームが中国語の基礎のレクチャーを受けました。前半は講義形式で、中国語についての特徴を、後半は中国語での自己紹介にチャレンジ。感染症の流行が落ち着いたところで台湾と交流をする際に役立つ内容となりました。それだけではなく、日本語や英語とはまた違った言語に触れることで、自分たちの言語の特徴にも意識を向けることが出来ました。



III 京都大学 森・里・海 連関学 合同成果発表会

3月19日、京都大学が主催する、森・里・海を題材としたポスターセッション・シンポジウムが行われ、これまで多摩川プロジェクトに参加してきた生徒がオンラインで参加しました。全国の高校生が参加する中から、森賞・里賞・海賞がそれぞれ選ばれ、本校は「里賞」グランプリに輝きました。昨年の海賞に続く快挙です。

多摩川での生態系をテーマに、本校生徒の代表5名が入れ替わりながらプレゼンテーションを行い、全国の高校生や審査員の方々から質問を受けました。

審査のポイントとして審査員から、「高校では答えの出ている問題に取り組むが、大学は答えの出ている問題に取り組んでいる所、そのような視線を持って審査した」とコメントがありました。普段から八王子東で探究に取り組んでいる生徒の姿勢がこの結果につながりました。



プレゼンの様子



原稿を直前までチェック



プレゼン後は全員で挨拶



審査員からも鋭い質問が